



識者は禁断の果実を食うか？

テリオン

キミが好きだ

私と共に
アトラスダムで
暮らして欲しい

…サイラス

俺は…

…

俺も…

識者は禁断の果実を食うか？



私はと言うと
アトラスダムに
持ち帰った辺獄の書の
解読をするかたわらで



それぞれの目的を果たした
私達は別れを惜しみながら
再会を約束し故郷へと戻った

今まで通り教鞭をとり
知識を広める
生活を送っている



おかえり

サイラス

家に帰れば
愛する恋人が
迎えてくれる
というのだ



ただこれまでは
大きく違うことは……



ただいま

キィィィ



彼は別れ際の
私の告白を
受け入れてくれ

今はこの
アトラスダムで
共に暮らしている



この街では
盗みをしてはいけない事



彼には
陽の当たる暮らしを
してもらいたかった

だから彼と共に
この街で暮らすにあたって
一つ約束してもらった



彼もそれを
受け入れてくれた

今は勉学に励みながら
私を手伝ってくれたり
家の事を世話してく
れたりしている



——ああ
幸せだ

ただ最近
気がかりな事
と言えば――

それで今日は
何か変わった事が
あったかい？

…ああ

昨日と同じく
酒場で情報収集を
してきた

どうやら今度は
貴族の屋敷が
やられたらしい

前は街の
店だったが…

キミもよく
買い出しに
行く店だったね

ふむ…同一犯と
考えるべきか
否か…

――盗難事件――

…元盗賊の俺が
言うのも何だが
よくある事だ

あの店は災難だった
が
あんたに実害がある
わけでもないだろう

衛兵に任せておけば
いいんじゃないのか？

…確かに
そうだな

…だが
テリオン
私にはね

この街で何か
起きてる…
そんな予感が
するんだよ

これは謎だ



謎は

解き明かさなくては
ならない

やれやれ：
事件だと言うのに
随分楽しそうだな

テリオン

付き合っ
てくれるかい

やっぱり
あんたは
変わり者だ

キッス

ではキミはその
変わり者の恋人と
いうことになるね

ふっ：
相変わらず
よく回る口だ

ふふ：ならキミが
塞いでくれるかな？

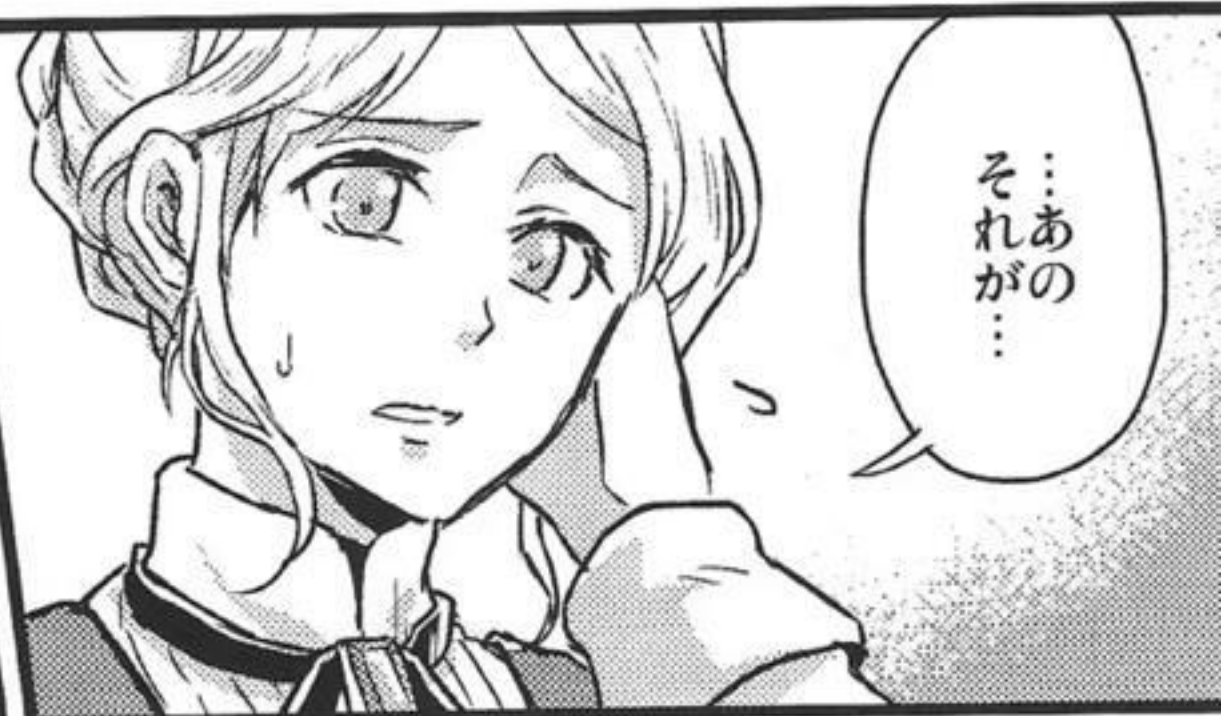




あら
サイラスさん

やあ
メルセデスくん

先日話していた本を
借りようと思ってね



…あの
それが…

ええ…

今日サイラスさんが
いらっしゃる
と思って今朝から
探しているのですが

すみません…



見つからない？



まさか
これが一連の…？

しかしあの本は
価値があるとはいえ
貴金属に比べると
低い筈だが…

本の価値を知らない
犯人ということか？

メルセデスくん
その話は
誰かにしたかい？

三冊の内の
一冊が…

えっ？
……いいえ

今初めて
お話しましたが
どうか
したんですか？

……でも荒らされた
様子もないですし
見落としているだけ
とは思いますが……

……実はこの頃
盗難事件が
相次いでいるんだ

盗難……!?

ふむ……では最近
誰か怪しい人物は
見なかったかな？

とは言っても
学生さんに
学者の方……

そうですね……

メアリー殿下と
テレーズ様が
今日は歴史文献を
借りに来ました

あとは……

ああ昨日は
テリオンさんも
いらしてましたね

おや……彼が？

先日の魔術書を
返却に来られて
次の巻を
借りていました

……彼はとても
勉強熱心ですね

ああ……私の力に
なれるようにと
励んでいるようですね

ふふ……

幸せ者ですね
サイラスさんは

クス

ああ……
そうだね

フッ

：メルセデスくん
どうも最近物騒だ

特に：特別書庫には
貴重な書物が多い
厳重に鍵を
かけておいてくれ

ええ
わかりました

それにしても
盗難事件か…

以前にも
こんな事が
あったな…

ええ：
ラッセルさんの
事件を
思い出しますね

え？…ああ
そうだね…

ラッセルの時…？

：いや確かに
似ているが
あの時は金品は
盗まれていない…

あの事件とは別に
つい最近にもこんな事が
あったような…

おや？

ああ

午後は
事件について
調べようと思
うてね

そうか

テリオン！

なんだ
サイラス

今日は
解読はいいのか？



それでテリオン
…首尾はどうだい？

何かわかった事が
あれば教えてほしい

貴族街の方を
調べていたんだが

ターゲットは
高価な宝石
だったようだ

被害に遭った
屋敷もわかった



そうだな…

これで被害は金銭に
本に宝石だね…

他には何か
わかったかい？

…そう言えば

事件の前日
貴族街には
似つかわしく
ない男を見た



…本当かい
テリオン？

あの身なりは
貴族街に
出入りする貴族や
商人とは思えない

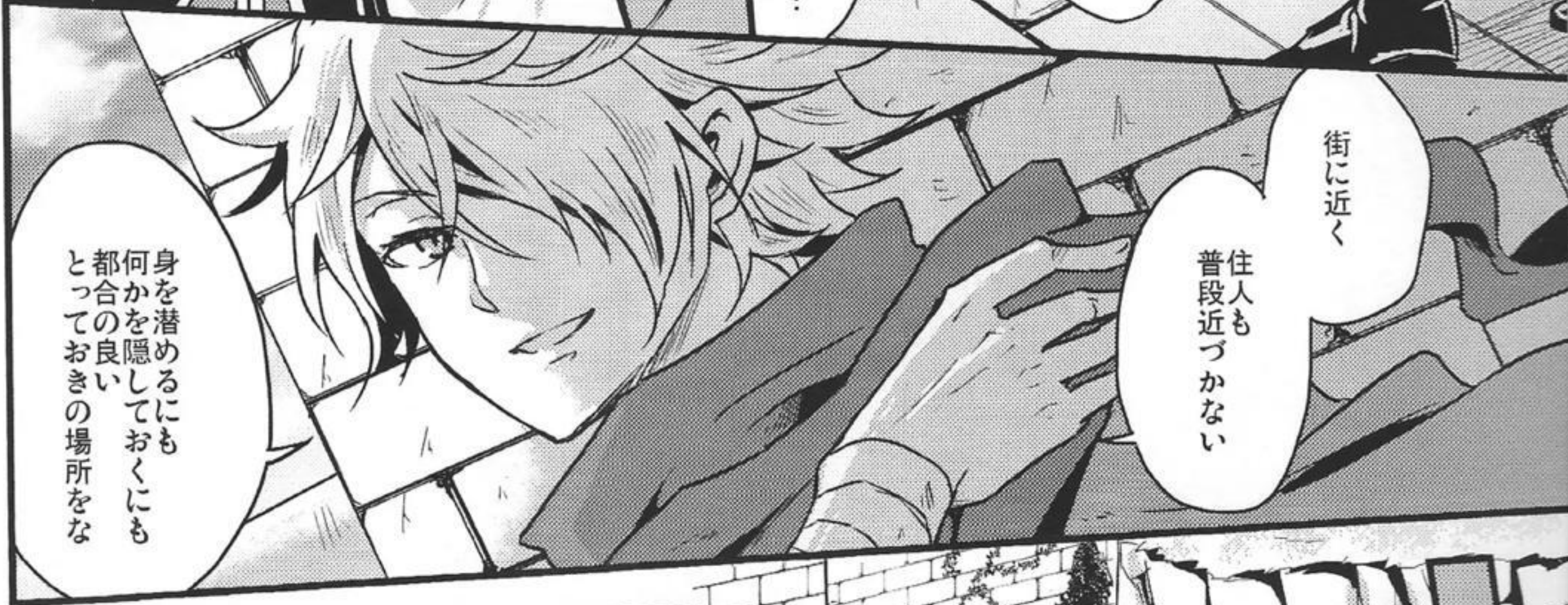
旅人…寧ろ
元ご同業…と
いったところか

盗賊か…ならもう
街を出たのだろうか

どうだろうな

…ただ簡単に盗める
狩場と思っているなら
まだ街に潜伏している
可能性はある

ふむ…では次に
調べるのは宿と
いうことかな？





入り口の雑草が
歪んでいる

つい最近人が
出入りした形跡だ

：調べてみる
価値はある

行くぞ



それにしても…

こうしていると
クオリークレストの
事件を思い出すよ

あの事件を
解決したのは
あんただだ

俺は大したことは
していない

そんな事はないよ！

あの時もキミは優れた
観察眼と洞察力で
私を助けてくれたね

：ただ私をもっと早く
あの街に着いていれば

違う結果になって
いたのだろうか







これは…
盗品の宝石か

一体どう
やったんだ？

それに何故
あの店を狙った？

この際すべて
教えてもらおうか

…それにしても
貴族の屋敷なんてよく
盗みに入れたものだ

キミはよほど
腕利きの
盗賊なのかな？

へっ
どうしたも
こうしたも…

あの屋敷は
衛兵は
確かにいたが

一か所鍵の
かかっていない
窓があったのさ



高価な宝石が
あることも
警備に
穴がある事も

その前の
あの店だって
防犯がなっちゃ
いなくて
朝まで留守だって

そんな噂を
酒場で
聞いたんだよ

それなら
他の奴らに
取られる前に…



随分とよく喋る奴だ
何か裏でもあるのか

ねえよ！

見つけた上こんな洞窟の
行き止まりで2対1じゃ
勝ち目はねえことくらい
わかるってもんだ

この男自身は
…大した腕ではない
…と言う事か？



おい
サイラス

確認は
終わったのか

本当だろうな

テリオン
構わない

引き上げよう

本当だったの！

…おかしい

…盗品は
ここにある
だけで全部か？

あ…ああ
そうだ



もうこんな
時間か…

テリオン

私はこの男を
城の衛兵に
引き渡して事情を
説明してくるよ



ふむ…王立図書館は
もう閉まっているか…

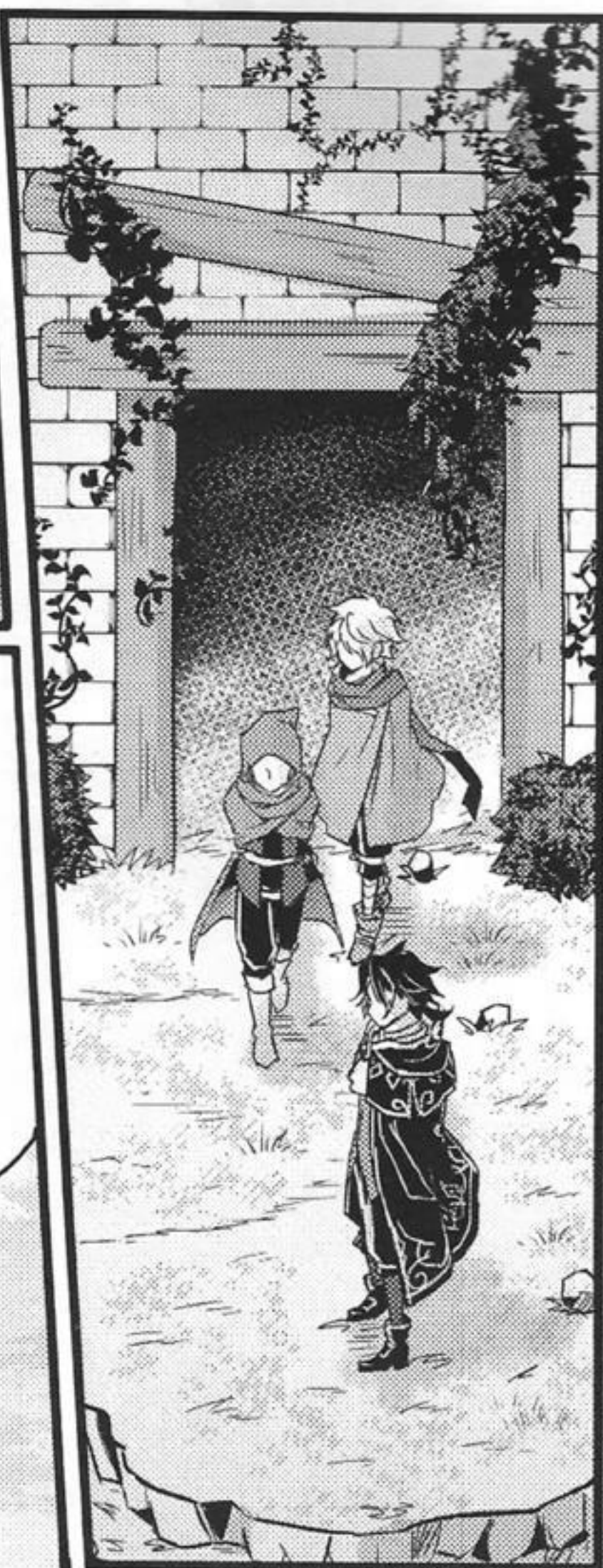
仕方ない

彼女には
明日事情を
説明するとして

わかった

俺は一足先に
帰って飯の支度
でもしておくさ

ああ…
また後で





あの
研究所には
アレは
なかった…

と言う事は
やはり…

ア
ア
ア



サイラスさん！

盗難事件の犯人が
捕まったんですか？

ああ…昨日ね
そのことだが

そんな…
それならどうして

サイラスさんに
依頼された本が
いたのかしら

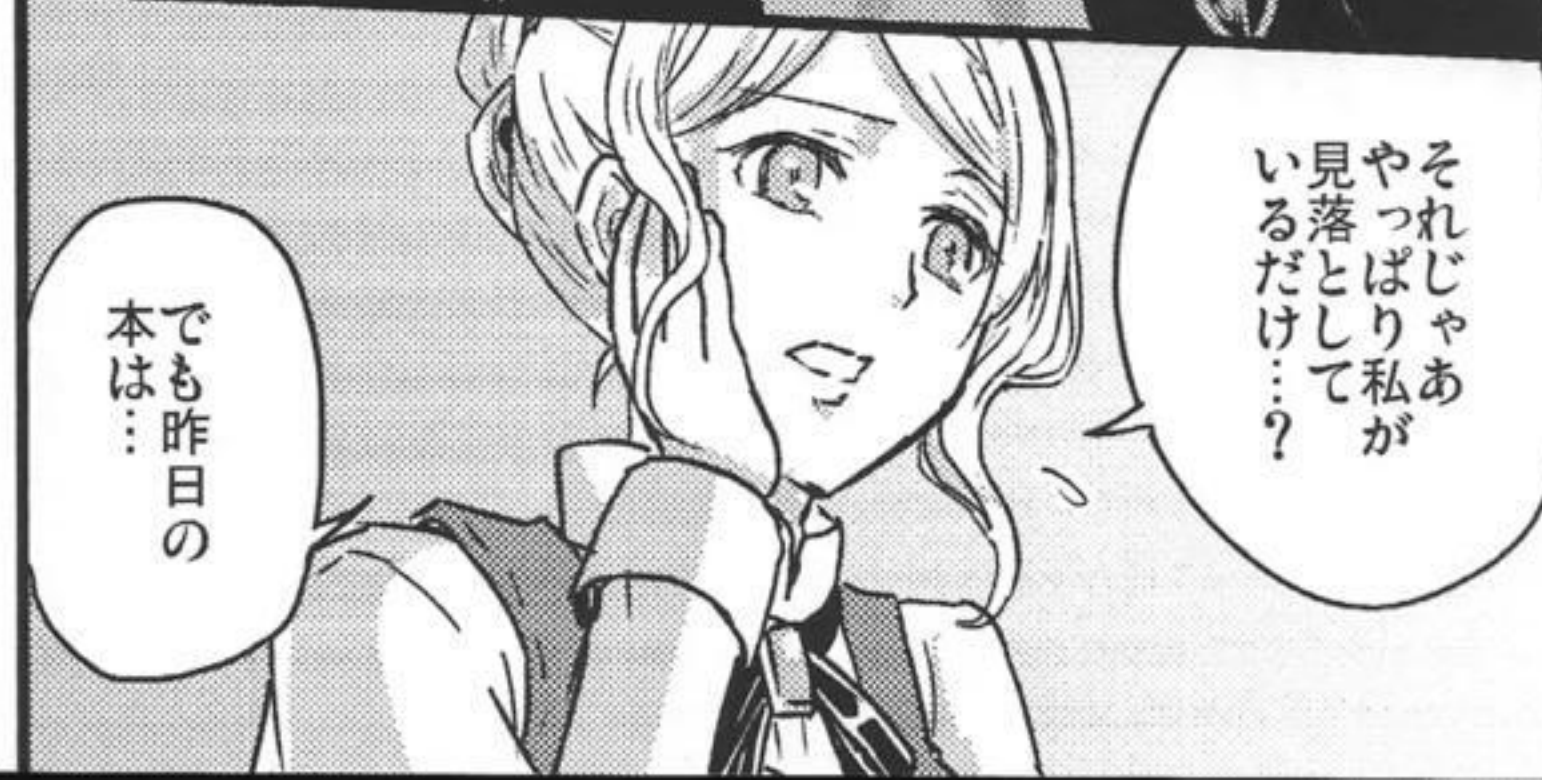
！



やはりそうか

…実は昨日

回収した盗品の
中には本の類は
なかったんだ



それじゃあ
やっぱり私が
見落として
いるだけ…？

でも昨日の
本は…

メルセデスくん
どういうことだい？

あの…それが昨日から
探している例の本が
見つからないばかりか

昨日はあった
本まで1冊
見当たらず…

本の共通点には
心当たりが
あるかい？

どちらも
解読に必要だと
サイラスさんに
依頼された以外は…

ではそのリストを
誰かに見せた事は？

いいえ
そんな事は…

やはりあの男は
本の窃盗には
関わっていない

となれば本の犯人は
書の解読を
阻止しよう…？

それとも
単に私に対する
嫌がらせか？

…そもそも彼女に
依頼した本のリストの
内容を知る方法など…

……

随分難しい顔を
しているな

ああ…

今回の事件について
少し頭の整理を
しておきたいわね

事件は解決した
つてのに学者先生は
とことん頭を使うのが
好きなようだ

…けどまあ
それでこそ
サイラスだな



：褒め言葉として
受け取っておくよ

さて…

コト

今回の事件：
被害は店の金銭
貴族の屋敷の宝石

：そして私の
依頼した本2冊

：だが全てが
一連の盗難事件ではなく
図書館の件は恐らく別だ



金目当てのあの男の
狙いは防犯の緩い金品

：しかし警備の厳重な
貴族の屋敷の窓に鍵が
かかっていないのは
不自然だ

図書館の件に関しては
金銭的価値とは関係なく
書の解読をしている私の
求めている本がターゲットだ

だが仮に獲物の見当は
付いても的確に
知ることはできない

そう：私が自宅で書き
彼女に直接手渡した
リストを見ない限りだ

そんな噂を偶然
酒場で聞くなんて…

これらの事が
示しているのは
つまり：

サイラス

眉間に皺が
寄っているぞ



えっ？

隣でそんな顔
されてちゃ
こっちが
集中できない

す…
すまない

…テリオン

昨日の午前には
王立図書館には
行ってないんだね？

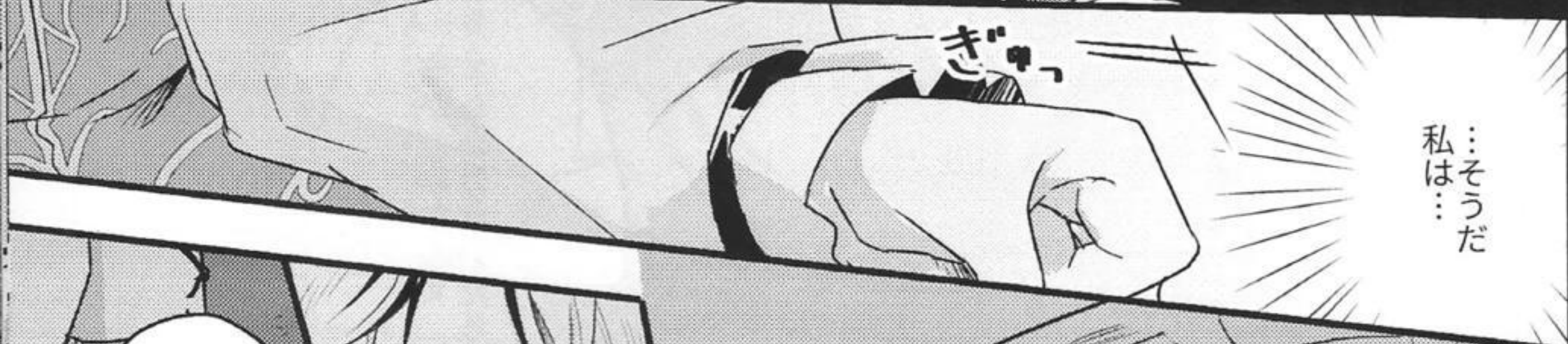
…テリオン
その本は？

ああ…一昨日
図書館で借りた
魔術書だ

前の本を
返すついでにな

一昨日…

…そうだが



…そうだ
私は…



私は気付いていたんだ
あの時から…！！

犯人しか知り得る
筈のない情報を知っても
何ら疑問を抱かず
接してきたあの時から…！！

—サイラス

……



俺は盗みはしていないぞ

っテリオン

私は…っ

俺を

疑っているのか？



俺が盗みなんてするわけないだろう？

…なんだ

確かにこの街で盗みをしたと約束はした

だが彼は口クでもないと言いつつも盗賊としての技には誇りを持っていた筈だ

この違和感は…

それが…



…勿論だ

忘れる筈が
ないだろう？

なあサイラス

あんたが俺を好きだと
共に暮らそうと言って
俺が何て返したか
覚えてるか？

キミはあの時…

あれ？



キミは…

キミも私を
好いてくれて

共に暮らす事と
盗みをしてない事を
受け入れてくれて…

本当に？



…いやいい
変な事を聞いた

忘れてくれ

テリオ…

今夜は
客間で寝る

あんたは部屋で
朝までゆっくり休め

バタ

テリオン…

彼は図書館の件に関わっている

いやそれどころか恐らく彼は…

：あのリストで依頼した本は全部で3冊…

なくなっただのはこれまでに2冊…

：だが盗みはしていないと言ったそんな彼をまた疑うなど…

“また”…？

…私は

どういふことだ？

私は“以前にも”彼を疑った…？

一体いつ…？

：何かを忘れて…？



とにかく…彼にも
何か事情がある筈だ
それを聞くべきか…

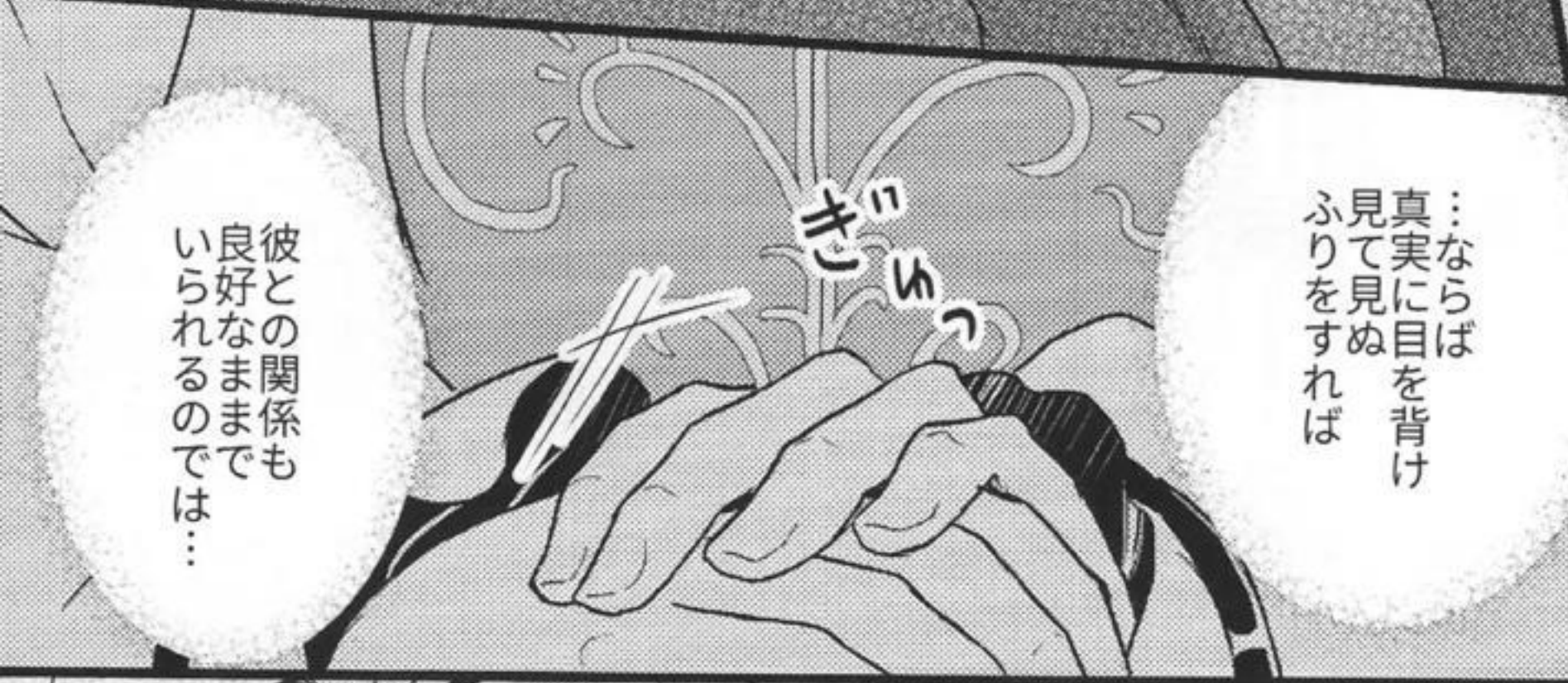


彼にとって
「信頼」というものは
何より価値のあるものだ

同時に「裏切り」が
どれほど彼に絶望を
与えるものなのか
私は知っている



いやそんな事をすれば
彼の言葉を信じていないと
公言しているも同然だ



…ならば
真実に目を背け
見て見ぬ
ふりをすれば

彼との関係も
良好なままでは
いられるのでは…



それでこそ
サイラスだなー



—学者先生は
とことん頭を使うのが
好きなようだな

…けどまあ



テリオン

今回の一連の事件を
仕組んだ張本人……

それは
キミだね？

……どうして
そう思う？

……まず最初に
知っておいてほしい

キミは盗みを
していないと言った

私はそれを信じる
ことにしたんだ

そこからキミの
真意が見えてくる
はずだと思ってるね

……



まず金銭と宝石の
二つの事件…

キミがしたのは
“あの男が盗める状況を
作り出すこと”だ

行きつけの店の
防犯情報を得るのも

貴族の屋敷の窓の
錠を抜いておくのも
キミの腕なら容易い

そして酒場でそれとなく
あの男に情報を流す…



宝石盗難事件の前日
貴族街で怪しい男を
見たとキミは言ったが
：その場に居たのが
不自然なのはあの男
だけじゃない

キミも
だったんだよ
テリオン

キミは貴族の屋敷の
窓に仕込みをしに
行っていたんだ

そうでなければ
まだ事件も何も
起きていない貴族街に
行く理由がない



なるほどな…

それであんたは
二つの事件の真相から
図書館の件も俺では
ないかと思っただけか

いや…
厳密には少し違う

…?

昨日図書館に行ったあと
街でキミの報告を聞いた私は
“被害は金銭と本と宝石”
と言ったがキミはそれに
対して追究しなかった

だが司書の彼女が
本の行方に疑問を
抱いたのは昨日の朝
だからあの時…

つまり一昨日図書館を
利用したキミは本来なら
“被害は金銭と宝石”と言う
事実しか知り得ないんだ

洞察力の優れたキミが
新たな情報であるはずの
本の件に疑問を抱きたい
様子がないのはおかしい

：そんな段階から
疑問を抱いていた
なんてな

あんたこそ
大した
観察眼だ

それに図書館から
“行方知れずになった本”の
共通点は全て私がリストで
事前に依頼していた本だ

そのリストは私が
彼女に手渡し彼女が
誰にも見せていない
と言っていた

…つまり

その内容を
知り得るのは私と
共に暮らしている
キミだけだ

いいやキミには
本を盗む理由がない

金銭も
宝石も本も…

盗むことが
キミの本当の
目的ではない

…そうさ

正解だよ
学者先生
：流石だな

：それで本を
盗んだ犯人は俺
…って結論で
いいのか？



…ここからは
証拠もないただの
私の推論だが…

聞いて
くれるかい？

…あんたの話は長いが
別に嫌いじゃない

…それは初耳だ



さて…実は
私は今回の一連の
事件が初めて
だとは思えない

既視感…とても
言えるものを
感じている

そこから私は…
私自身が
何かを忘れてい
るのではな
いかと
推論を立てた



つまりテリオン

キミが本当に
したかった事は…

一連の
事件を再現し

私が忘れた“何か”を
思い出させることだ



今回の事件の
既視感

研究所で話した
クオリークレストでの
誘拐事件の結末…

先ほどの自宅での
キミとの会話…

私には…
事件の中身とは
別のところでは
不可解な事があるんだか

なにより
一番の違和感は…

キミの存在
そのものだよ
テリオン



俺が…
おかしいと？



恋人…そう

…私はキミに
想いを告げ共に
暮らしてほしい
と願った

…存在を否定される
とは思わなかったな

一応こんなでも
あんたの恋人の
つもりだったんだが

何故なら私は

私とキミは…

だがキミが此処に
暮らしている
その事実こそが
違和感の
正体だったんだ

…恋人などでは
ないのだから

…そうはどうして
忘れていたんだ
私が好きになっ
た
テリオンは…

…サイラス
俺は…

俺も…
あんなの事は
嫌いじゃない

だが俺は…あんと
一緒に暮らせない

あの時…私と
一緒にいること
を選ばなかった！

今私の目の前に
いるキミは…いや
キミだけじゃないや

私にとって
今のこの現状は

都合が良すぎる



キミなら
知っているんだろう？

…この事件を
再現しようとした
キミなら

私の知らない
全ての真実を！

…知ることで
今の幸せを
手放すことに
なるとしても？



キミと
想いを通わせて
共に暮らさせて
幸せだった…

だがどんなに
幸せだろうと
作り物のまやかしでは
意味がない

私が求めるのは
真実だ！

…サイラス

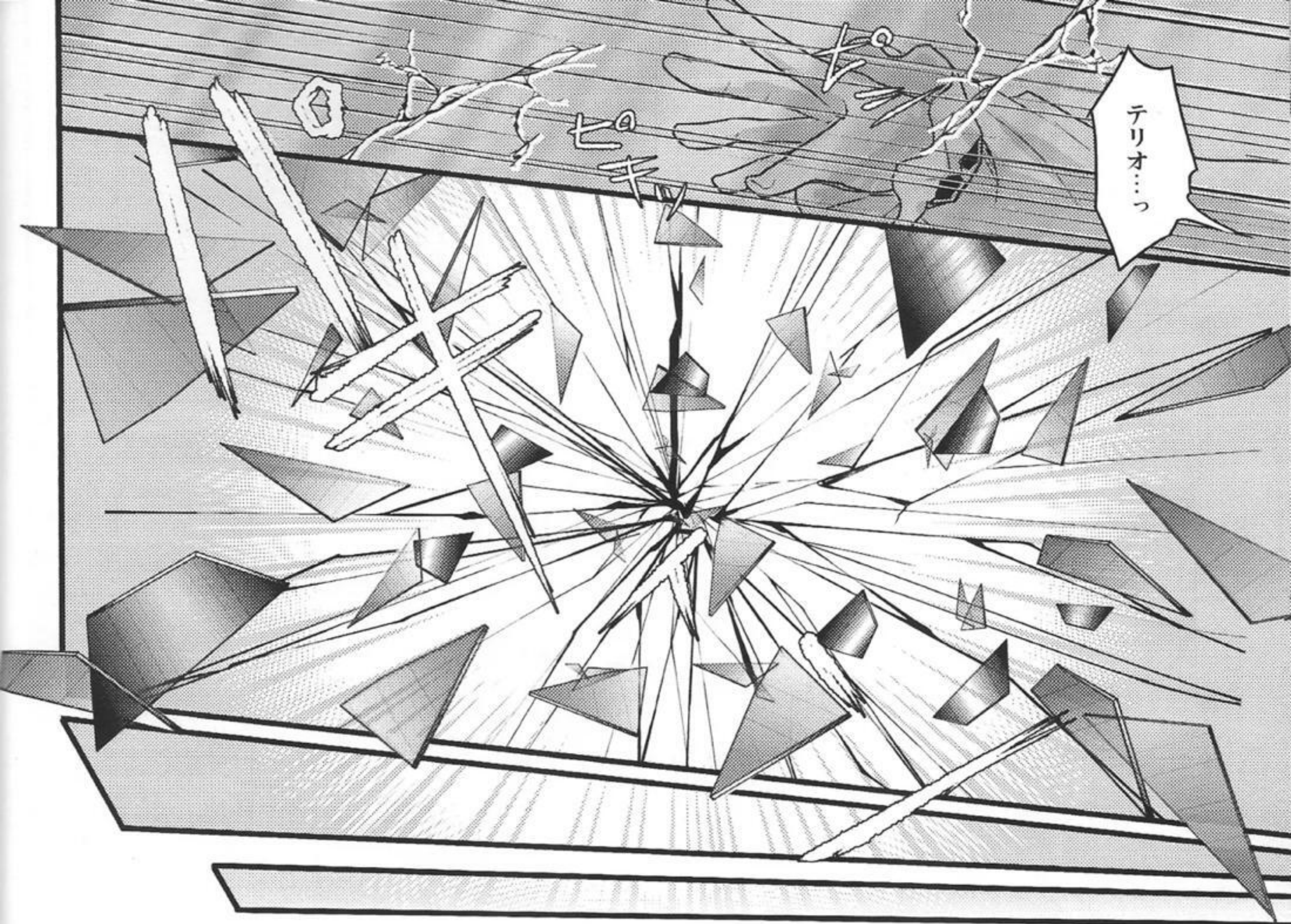
その言葉を
待っていた

テリオ…

伏せろ!!









それでその…

まだ記憶が
ぼんやりして
いるのだけれど

ちゃんと順を
追って説明するさ

終わる頃には
記憶もはっきりして
くるだろう

…よろしく
頼むよ

…あんた達と別れた後
旅に出た先で俺は
ある一つの依頼を受けた

それは
“禁断の本”の
回収と処分だ

“禁断の本”…?

適性の高い者を本に取り込み
取り込んだ相手の願い通りの
甘い夢を見せる…
捕らえた獲物の魔力を
奪い死に至らしめる
悪意の塊のような本だ



一度閉じ込められると
本人の意思で出たいと
望むまで出られない

中から打ち破るには
綻び…その時現れる
本体を狙うしかない

あの時の魔物…!!

俺はその本が
アトラスダムにあると
知って此処に来た

ならば私に一言
相談してくれても…

そうだな…
俺がちゃんと協力を
仰いでいたら

違った結果になった
かもしれないな…

テリオン…

あんたの性分から
本自体の処分を
咎められる
可能性があった事

あんたの本…
知識への探求心は
今回の件に
関して言えば
危険性が高かった事

あんたに相談せず
“盗む”という
手段に出たのは

一応…
理由がある

ふむ…それは
禁断の本の
“適正”とやらの
ことかな？

聞いた話じゃ特に
魔力の高い者を
好んで食らうらしい

そう…例えば

深い知識と魔力を
蓄えている学者…

つまり…サイラス
あんたは格好の
餌食となる
可能性が高かった

…だからあんたを
巻き込みたく
なかった

それに…

それに？



：俺がアトラスダムに
来た時偶然街では
盗難事件が頻発して
何でも手口の鮮やかな
盗賊の仕業だとか：

噂を聞いてはいたが
こっちは仕事もの
だしていられたん
だから俺は標的の
本が忍び込んだと
聞いた図書館に



：あんなの誘いを
断った手前：顔を
合わせづらかった：

という理由も
なくはない：



それはその…
まあ確かに…
別れ際に…
フ…
ラレてにキミに
いるしね…

…話を戻すぞ



：テリオン
一先ずその本を
こちらに渡して
くれないか？

特別書庫の本の
持ち出しは
禁止されて：

近寄るな！



何故
キミがここに…

まさか噂の…？
キミが噂の…？
いやそんな筈が…

サイラス…！



…そこから先の事は
そろそろ思い出して
きたんじゃないか？

テリオン!!



!?

テリオン?
何を言って…

とにかくこっちへ…

…サイラス
そこを退いてくれ

あんたに
この本は渡せない

やめろ!
触るなっ!

そう…あの時

私はキミを
疑ってしまった
…本当にすまない



…あの後
俺は事前に
聞いた方法と

“学者”の力で
あんたを追って
本に入った

本に限定すれば
盗もうとしたのは
事実だ

別に
謝らなくていい

だが本の中では
サイラスは
登場人物であり
創造主でもある

だからあんたが
願った事や
命じた事は
ルールとなる

妙に私に都合の良い
世界だと感じたのは
そう言う事だったのか…!!

あの世界じゃ人もモノも
あんたの記憶から作られた
幻のようなものだが

作り物に
ルールか…

作り物は
真実を知り得ない

…キミもある程度
影響を受けていたも
或いは知っていたも
言う事が出来なかつた
…と言う事かな？

外部から割り込んだ
俺もまたルールに
従わざるをえなかつた

話が早くて助かる
だから俺は制限の
範囲内で動いて現実の
出来事を再現した

サイラス自身に
疑問を抱かせ真実を
突きとめさせる為にな

だが盗みをしてない事…
なんてルールを
設けてくれたせいで
とんだ苦勞をしたものだ

ではあの事件の際
図書館の本は…

“盗む”の定義は許可なく
持ち主の管轄から離す事…

だから俺は図書館の中で
本を移動させただけ…
司書に見つかからないよう
隠してな

…そういうこと
だったのか



理解はできた…が
随分と確実性の
薄い賭けだ

「イッ」

わかっていたのかい？
最悪の場合テリオン…
キミまで…

あのまま見殺しに
するくらいなら
助かる可能性に
賭けただけだ

…それに

謎を
散りばめてやれば

あんたなら必ず真実に
辿り着くだろうと
信じていたからな



テリオン…!

ドキ



…うん？

ピッ

ちよっと
待ってくれ
つまり…

言動や行動はルールに
縛られていたが
キミだけはあの世界で
作り物ではなかった
と言う事だね？

そうだな

そして記憶も
はつきりある…と

…まあ
そう言う事にな
るな



という事は…

その…

私が幾度も夜を共にしてはいたのは
幻などではなく
本の世界に入った
キミ自身という事で……

つまりあの時
感じたキミの

わかったから
それ以上
言わなくて良いっ

確かに俺は
あの時あんな
誘いを断ったの

愛だの恋だのそんな
不確かなモノを信じるのは
まだ抵抗があるし
俺にそんな価値が
あるのかもわからない

だから距離を
置きたかった

すっ……
すまない！

本当のキミの
同意も得ず
私はその……

はあ

……
……サイラス

今回……あんなが
死ぬかもしれない
と知って動揺したい

テリオン……

……だが

失いたくない
……手放したくないと
思った

この気持ち
どう言え
まだわからないのか

それでも俺は……











やはり行って
しまうのかい？

ああ…依頼の顛末を
報告に行かないと
いけないしな

…それに
一所に留まるのは
俺の性には合わない

そうか…



…テリオン
恋とはとても
罪深い感情だね

私は今回の件で
…自分の欲の
深さを知った

もっと笑ってほしい
ずっと一緒に居たい

共に暮らしたい
陽の当たる世界で
生きて欲しい

心が欲しい
身体が欲しい

…自分だけの
ものにしたいの

これまで誰かに
執着する事のなかつたり
私はどんな欲深くなり

本来好きになったキミを
自分の理想通りに
変えようとしてしまった

…人も物事も
あの世界と違って現実
は思い通りにはならない

何者にも縛られず
この世界を自由に
生きるキミを私は…

だからこそ…私は
キミの手を放そう

テリオン…
旅の無事を
祈っているよ

…アトラスダムで
一緒に暮らすことは
できない

…けど俺は…

…テリオン？

サイラス



行っ・て・く・る



行っ・て・お・い・で
テリオン

あ・あ・：・そ・う・か

最後まで読んで頂いてありがとうございました！
折角ゲーム本編で推理モードのあるサイラスなので
サイテリを描くなら推理モノが描きたい！
と着手したものの慣れない推理モノに悪戦苦闘しました。
サイラスとテリオンのキーワードとも言える
「推理」「盗む」「真実」「自由」「信じること」も作中に入れられて満足です。

推理部分に関しては一連の事件に見せかけた二重事件、
事件全体に紛れさせた真犯人の真意、その真意に隠されていた世界の真実、
といった三層構造です。表紙とタイトルにも色々とヒントを散りばめました。
読みながら何かに気付いたり考えて楽しんで頂けたら嬉しいです！

識者は禁断の果実を食うか？

2019/1/27 初版発行
STARBOOKS

2019/7/21第二刷発行
株式会社サングループ

2022/1/31第三刷発行

おたクラブ(大阪印刷株式会社)

INFINITY/沙希

pixivID=1132761

infinity_arka@yahoo.co.jp

感想など頂けると喜びます！



この本は二次創作同人誌であり公式とは無関係です
無断転載・フリマアプリ・オークションへの出品を禁じます



20190127
OCTOPATH TRAVELER FANBOOK
Cyrus*Therion
INFINITY/Saki